

スラローム委員会 臨時ミーティング

開催日：5/23

参加メンバー：中井、工藤、穴見、金上

○大会に観光的な要素を加えるという提案について

レース以外の要素を充実させることで「行く理由」を感じてほしい。

・淡路島のグルメ・施設・絶景スポットなどを紹介する

→大会にとどまらずショップのツアーなどにも繋がる

関東からの参加者の中には観光のために行くという声もちらほら見られる。

紹介するお店や施設、場所などを自分たちで調べるのではなく、地元調整役に聞く。←地元の人にもメリット。（淡路内でのつながりの強化。ネットから写真を拾ってくるより、直接アピールしてほしい写真をもらう方がいい。）

・流れ

実行委員会から上記のような投稿をしたいので情報をくださいという旨を伝える。

↓

なるべく地元の人がコミュニケーションが取れるところをチョイスしてもらって動画や写真も送ってもらう。それをインスタに投稿&ストーリーで発信。

○乗合プラン

・遠方の遠征には飛行機で行きたいという声が多い

将来は道具を運ぶ負担を減らすためにトラックを借りるなどして運搬の支援→大会後も延泊して観光→地元への貢献にも繋げたい

担当選手の車の空きスペースに足がない選手の道具を積む？

→まずは九州地方でテスト（穴見）

淡路は間に合わないので津久井の大会でオフィシャルに記載。

○アマチュア選手向けのクリニックについて（そもそも必要かどうかも含めて）

・目的は「新しい気づきを持って帰ってもらう」こと。それがリピートにもつながる。

・風がなくてレースができない時にはMustで行う。（配信内容の充実のため）

・レースが進行できるコンディション下ではどうする？

→あくまで大会の成立が最優先。まずは全クラス成立するのが条件。（クラスが増えたので進行スピードに懸念有り）

案①

2レース成立した場合に次のレース前にインターバルを置き、トップの選手にその日のレースのポイントやセッティングの情報についてクリニックを行う。

選手への通達に関しては帆走指示書を利用。

「2レースが成立した場合1時間のインターバルを置く場合がある」など

案②

トップフィニッシュした選手へのインタビュー（TSUKASAや浜の宮などで行っていたもの）を改良。

・流れ

今まで通りファイナル終了後トップの選手を本部テントに呼び出す。

その際にアマチュア選手もテント前に呼ぶ。（質問会という名目）

MCがインタビューするのではなく、アマチュア選手がトッププロにインタビューするという形。

（MCが聞いていることが視聴者の聞きたいこととすれ違うのを防ぐ、当事者目線の進行。）

MCは集まったアマチュア選手に質問を促すのと時間や進行のコントロール。

後日このシーンの切り抜きをインスタにアップする。（大会に来ていないアマチュア選手にも幅広くリーチできる。）

☆レース進行も止まりにくいので淡路ではこの案を試験的に導入する

○大会前の声かけについて

・各地からの参加者増加のための取り組み

①メール

無視されやすいので効果が見込めない

②文書を郵送

中が見えない封筒に「JWAスラローム委員会」とだけ記載。（開けて見てもらいやすくなる）

中に大会のポスター、要項、エントリー用紙、年間のスケジュールなどの書類を入れる。

（参考）

シヨップ数を60とした場合

A4の紙の送料：140円

チラシ枚数：15ページ

$60 \times 15 \times 140 = \text{¥}12,600$

課題：仕分け作業をどう分担するか？

③直接訪問

②の書類を実際に訪問して手渡し。同時に対面での声掛けを行う。各水域の代表が行ける範囲で届ける。

まず行いたいタスク

- ・全国のショップ数を把握